

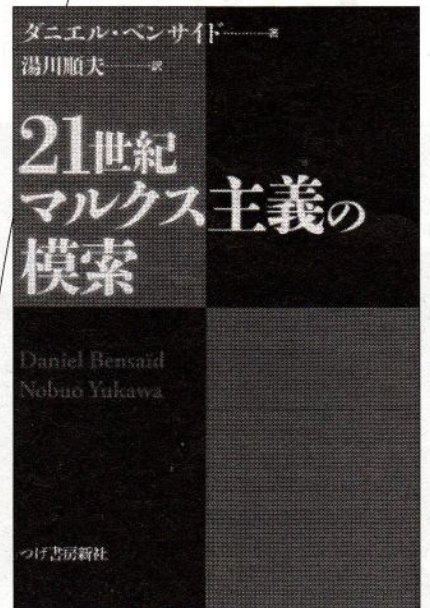
21世紀マルクス主義の模索

政治闘争家でもあった 哲学者ベンサイドの遺産

中村富美子

なかむら ふみこ / ジャーナリスト

週刊金曜日
11 (H23) . 12. 16号



『21世紀マルクス主義の模索』
ダニエル・ベンサイド=著 湯川順夫=訳 つげ書房新社
3990円 ISBN978-4-8068-0625-7

ダ

ニエル・ベンサイドは
フランスきつてのマル

私も何度かゼミに参加し、世界
を精緻に分析する哲学の有効性
を興奮して味わったものだ。こ

要素が盛り込まれるべきか。
戦略の思想家ベンサイドが示
すのは、分かち合いと平等の共

述した当時、独裁とは「専制」
と対立した啓蒙主義の語彙であ
り、二〇世紀の軍事独裁や官僚

な分業と不平等があり、政治の
職業化、知の私有化、社会関係
の複雑さに結びつく。だから現

クス研究者だが、トロツキスト
の活動家であり、「左の左」を
行く政党の理論家であり、政治
参加の伝統をもつフランス知識

の本を手にながら、知の傲慢
に陥らず、素朴な質問にも誠実
に答えていた姿を思い出す。

共有資産の防衛、全般化された
略奪と世界の私有化に対抗する
サービスの無料化。その実現の

級についても、確かに工業プロ
レタリアは減少しているが消滅
にはほど遠く、生産手段の所有

常にも複数でマルクス主義を語
ったベンサイドは、経済学、社
会学、ジェンダー研究、ポスト

人の中でも特異な存在だった。
一九六八年五月革命の牽引者
とは思えぬほどシャイで控えめ

載されたテキストや発言を、マ
ルクス主義の今日的意義を探る
観点から編みなおしたものだ。

「マルクスなしに未来はない。
マルクスとともにマルクスに反
対し、マルクスをのりこえる。

大多数の賃金労働者（多くは女
性）こそマルクスがこの言葉に
与えた意味でのプロレタリアな

他の批判的思考の潮流と対話し
前進しようとした。そして共産
主義の平等の語彙を、個性なき

なるまで、常に労働者とともに
あったから、デリダやフーコー
やドゥルーズや、二〇世紀に名

を経て、マルクス、エンゲルス
の共産主義思想の継承はどのよ
うに可能か。新自由主義のグロ

マルクス「抜き」ではなく」
そう定式化したのはデリダだ
が、スターリンの恐怖政治と共

体的誤謬ではなく社会現象とみ
なす。根源には社会的・技術的

「叫びと抵抗の多様性を解き放
て」。亡き哲学者の声が、いま
地球上を覆う憤怒の叫びに重な

身が居心地悪く感じたらどう。
持たざる者の側で世界の変革
をめざす思想と活動は、そのま

倒した九〇年代以降、「資本主
義の勝利」が人間に決定的な敗
北をもたらしている未曾有の危

本書が詳らかにするように、プ
ロレタリア独裁とマルクスが著

な分業と不平等があり、政治の
職業化、知の私有化、社会関係
の複雑さに結びつく。だから現

地球を覆う憤怒の叫びに重な
って聞こえる。